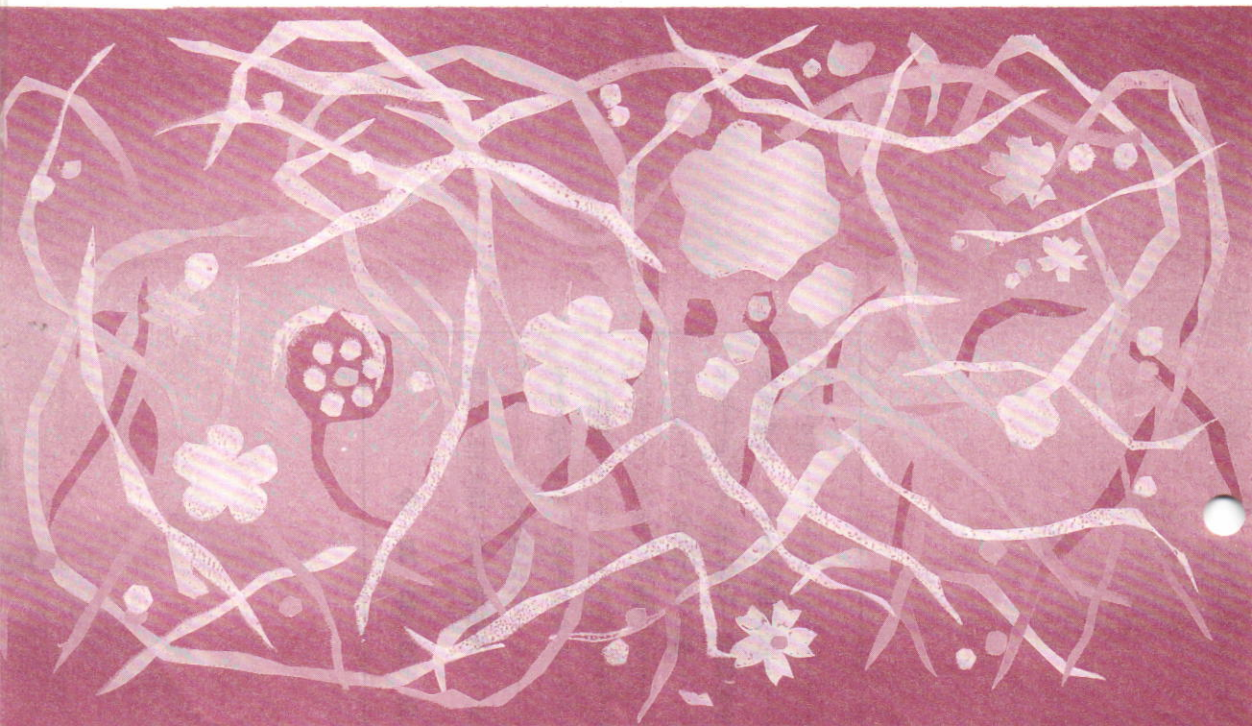


大正練成綴り



Moboru Teuruntami



平成 14 年 381 号

今月号目次

鶴谷・塩谷歴代理事長相次ぎご逝去……	2
レポート 夏期錬成会……	3
その食事はキレる子になる……	4
文化祭……	5
レポート バトン教室……	7
おめでとう 全国大会出場……	8
平成十四年度 柔昇段・昇級審査会……	9
教室紹介 こども英語教室……	10
おしらせ……	11

鶴谷久男 第三代理事長
塩谷孝一 第四代理事長
相次いでご逝去

ご遺徳を偲び
ここに哀悼の意を表します

《鶴谷久男理事長のご功績》



故鶴谷理事長は、当館創始者故飯田峯兆先生の哲学に深く敬服され、当館の目標「将来のため、社会のため、日本のために役立つ、人材の発見と育成」に大いに賛同され、創館四年目に故粟田吉郎初代会長、故服部副会長が中心になって設けられた顧問会員となりました。時間じくして、当館の法人化案と市から借用している建物の改築案に粟田会長、服部副会長

と共に伏木錬成館建設促進期成会会長として東奔西走してくださったお陰で、昭和四十六年四月に財団法人の認可がおりました。

この年、服部副理事長、粟田初代理事長が相次いでご逝去なされ、深い悲しみに包まれましたが、四十七年四月に鶴谷先生が強く推薦されました佐賀徳太郎先生を第二代理事長としてお迎えし、同時に新築補助金の決定も届き、五月末に新築工事が始まり、十二月に新館が落成し、充実と発展に弾みがつきました。

昭和五十年の佐賀理事長ご逝去の悲報後も十年余り、何かとご心配して、激励にご来館くださり、六十年に第三代理事長としてご就任いただき、平成八年にご退任なさるまで、永年におたり、当館を見守り、充実・発展にご尽力くださいました。

ご退任後、悠悠自適の生活を送られ、数年前から療養に努めておられました。本年十月十八日永眠なさいました。

《塩谷孝一理事長のご功績》



故塩谷孝一理事長も、創始者故飯田峯兆先生と当館が、地域の青少年健全育成、生涯教育を通じてよりよい地域社会づくりに取り組んでいることに、関心をもつて見守っておられ、特別会員制度を設けた時に、顧問会員になっていただきました。

皆さまご存知のように、塩谷先生は、富山県実業団柔道連盟会長、富山県スポーツ少年団本部長、高岡スポーツ審議会会長のご要職を兼ねて、幅広く地域社会にご貢献なさっておられ、日ごろから私たち職員に次のようなことをお諭しくくださいました。

- 青少年健全育成は大変重要な役割をもっていること。
- 礼儀正しく、使命感あふれ、地域社会に、引いては世界に貢献できうる人材づくりは、二十一世紀に臨む私たちの使命であること。
- 健康で、立派な人の育成は国の将来を開くこと。
- 青少年はまさしく国の財産であること。

塩谷先生のこのような青少年に対する思いと、当館が掲げる青少年育成の取り組みとが合致することを非常にお喜びになり、平成八年に第四代理事長をお引き受けくださいました。

ご在任中、諸行事や館外で行われる大会に会場までよく激励にお越しくださり、そのお陰で、伏木錬成館バトントワラーズが平成九年より十二年まで四回連続して北陸地区代表として全国大会に出場することができました。

その後、数年前に塩谷先生は体調を崩され、平成十三年にご退任され、療養に励んでおられました。本年十一月九日永眠なさいました。

夏期錬成会

本年度は八月十日(土)・十一日(日)に、国立能登青年の家で開催しました。参加人数は小学生会員三十一名、保護者六名、職員十一名で、大変にぎやかな錬成会となりました。

一日目、お昼頃に青年の家に到着。入所式、施設の説明、昼食を終えて一番目のプログラム「手作りいかだに挑戦」の予定でしたが、あいにく波が高くて予定変更。見た目にはたいした事はないと思っただけですが、地元の方のお話では沖に流される危険があるということだったので、敢えなく海水浴に変更。とても楽しみにしていたのですが、残念。でも、子どもたちは切り替えが早く、時間を忘れて波と遊んでいました。

夕食を終えて、二番目のプログラムは「星座観察」。夏の澄んだ空を見上げて、いくつ星座がわかるかな……と思っていたのですが、夕方から雲が出始め、これもまた断念。星座のお話を、

聞きながら夜空に思いをはせました。その後はそんなうつぶんをはらすかように「大なわとび」に挑戦です。低学年には少し難しかったかもしれませんが、それでも、なんとか飛んでみせようと思気込みは負けていませんでした。また、高学年チームと保護者チームが何回飛べるか競争しました。かなり息切れの様子でしたが年配者の面目躍如、保護者チームに軍配が上がりました。汗をいっぱいかきながら楽しい時間を過ごしました。

二日目、朝、柴垣浜で地引き網を体験しました。錬成館と中学生の二つの団体で一つの網を引きました。長さにしてどれ位でしょうか。みんなで力を合わせてロープを引いてもなかなか網が見えてきません。お話では、あまり早く引いてもいけないそうで、ある程度時間をかけないと魚が網に入らないそうです。

しばらくしてやっと網が見えてきました。この重さはさぞかし大漁だろうと、みんな期待しました。するとどうでしょう、重いはずです。網の中はクラゲでいっぱいでした。今年は何年より、かなり多くのクラゲが発



生した年なんだそうです。でも、そのクラゲに混じってかわいらしい小あじがたくさん入っていました。残念ながら大物はありませんでしたが、それでも子どもたちは自分たちが漁った魚を見て大喜びでした。

そして、その漁ったばかりの魚を使って保護者の方々に味噌汁を作っていたいただき、浜で朝食をとりました。途中、雨が降り出してきましたが、そんなことは気にせず、いっぱい力を使っただけか、お腹がすいたと見えて、みんなよくおかわりしていました。当然、お味噌汁の味もよかったです。

以上で今回のプログラム終了しましたが、今年も、残念ながらお天気に恵まれませんでした。それでも子どもたちは熱心に活動に取り組んでいました。

